

魅せます！  
春日井  
広報大使

春日井の魅力を市内外に発信していただいている春日井広報大使。  
このコーナーでは、大使自身の魅力をお伝えします。



元プロ野球選手・野球解説者

**鹿島 忠**

Kashima Tadashi

●プロフィール

鹿児島実業高校で夏の甲子園に2回出場。ドラフト1位で中日ドラゴンズに入団。中継ぎのエースとして活躍し、引退後は中日、楽天の投手コーチを歴任。現在は、野球解説者の傍ら、少年野球の指導なども精力的に行っている。

**誕生日に自ら投げてセ・リーグ優勝**

中日ドラゴンズに入団し、星野監督や高木監督の時代に、主に中継ぎピッチャーを務めました。現役時代、最も印象に残っているのは、昭和63年10月7日、自分の誕生日に登板した試合で優勝を決めたことです。平成6年10月8日の巨人との優勝決定戦も、もう一日早ければ勝っていたかもしれません(笑)。

**春日井の魅力をどう創るか？**

春日井市には25歳から約20年間住んでいました。春日井まつりや落合公園の花火大会、勝川の商店街などによく行きました。

名古屋の都心にJR一本で行ける便利さがありますが、全国的には「春日井」ってどこかとよく聞かれます。春日井広報大使となってからは、大使として



講演会などで春日井をPRしていますが、どう春日井の魅力を創っていかかが大切だと思います。

**野球を通じて夢や生き方を伝えたい**



高校野球で甲子園に2回出場しましたが、当時と現在では野球の環境が全く違います。今の子どもたちは、体は成長していますが、芯の強さは弱くなっていると感じます。高校野球で体を壊さないためにも、少年野球のころから肩や肘への負担に配慮するなど、子どもたちへのケアや指導を徹底する必要があります。

コーチ時代、星野監督をはじめ多くの指導者に出会い、自分なりに試行錯誤を繰り返しました。コーチは嫌われ役。選手が成功すれば監督のおかげ、失敗すればコーチのせい。限られた選手枠の中で、選ばれなかった選手は職を失います。才能がある選手でも来たチャンスをモノにできるかどうかで、プロ野球で生き残れるかが決まります。プロの厳しさがそこにあり、指導者としていい経験をする事ができました。

今は、野球解説者をしていますが、春日井広報大使として、野球教室などの企画の話があれば、ぜひ協力させていただきたい。春日井をはじめ全国の子どもたちに野球を通して、夢や希望、人生の生き方を伝えたいと思います。

